

報告事項キ

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂について

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂について、別紙のとおり報告します。

平成30年7月18日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂について

鳥取県幼児教育センター

(小中学校課 幼児教育担当)

1 趣旨

- ・社会の変化等を踏まえ、平成25年3月に改訂したプログラムを、「遊びきる子ども」を育むための幼児教育の充実の方向性や取組を示すプログラムとして改訂する。
- ・全5回開催（H30年度：3回 H31年度：2回）

2 検討委員

	所 属	氏 名
幼稚園・認定こども園・保育所関係者	国公立幼稚園・こども園長会（北栄町立大谷こども園長）	飛川みゆき
	私立幼稚園・認定こども園協会（認定こども園倉吉幼稚園長）	日野 彰則
	子ども家庭育み協会（倉吉東こども園長）	大橋 和久
小学校関係者	小学校長会（小学校長）（北栄町立北条小学校長）	岡本 雅子
保護者	幼稚園・保育園PTA（認定こども園鳥取第二幼稚園PTA副会長）	西澤 晋介
家庭教育関係者	「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ	浅雄 淳子
学識経験者	鳥取大学地域学部 教授	塩野谷 齊
	鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授	國本 真吾
市町村行政関係者	市町村保育担当課担当者（鳥取市こども家庭課 参事）	星見 伸子
	市町村教育委員会担当者（日野町教育委員会教育課 課長）	砂流 誠吾
アドバイザー	白梅学園大学大学院 特任教授	無藤 隆

事務局

- ・教委：足羽教育次長
鳥取県幼児教育センター（小中学校課・各教育局）、特別支援教育課、教育センター、人権教育課、体育保健課
- ・福祉：子育て応援課、子ども発達支援課、福祉保健課

3 スケジュールおよび協議内容

会 議	開催予定	内 容
第1回	平成30年 7月17日（火）	○幼児教育振興プログラム改訂にあたって ・鳥取県の幼児教育の現状と課題について ・めざす子ども像について（委員による協議） ○アドバイザーによる講義 「幼児教育の今後」 白梅学園大学大学院 特任教授 無藤 隆
第2回	平成30年10月	・骨子素案について
第3回	平成31年 2月頃	・骨子案について
第4回	平成31年 5月頃	・プログラム案について
第5回	平成31年 8月頃	・プログラム最終案について

4 その他

鳥取県教育振興基本計画の改訂時期に合わせ、平成31年度に改訂し、冊子を県内すべての園・小学校等、市町村保育担当課・教育委員会へ配布予定

第1回鳥取県幼児教育振興プログラムの改訂に係る検討委員会

日 時 平成30年7月17日(火)

午後1時30分～4時

場 所 鳥取県庁第二庁舎32会議室

1 開 会

2 挨拶

3 自己紹介(座長選任)

4 「鳥取県幼児教育振興プログラム」改訂にあたって(事務局説明)

(1) 鳥取県の幼児教育の現状について(子育て応援課)

(2) 改訂に係る基本的な考え方について(小中学校課)

5 アドバイザーによる講義

「幼児教育の今後」

講師 白梅学園大学 特任教授 無藤 隆 氏

6 協議

(1) 乳幼児を取り巻く現状と課題について

(2) 鳥取県のめざす子ども像について

7 その他

6 閉 会

第1回鳥取県幼児教育振興プログラムの改訂に係る検討委員会の開催について

平成30年7月18日(水)
鳥取県幼児教育センター
(小中学校課 幼児教育担当)

第1回鳥取県幼児教育振興プログラムの改訂に係る検討委員会について、開催の概要は以下のとおりです。

1 日時

平成30年7月17日(火)
午後1時30分から4時まで

2 会場

鳥取県庁第二庁舎4階32会議室



3 参加者

(1) 委員

- ・幼稚園・認定こども園関係者2名(公私立幼稚園・こども園長会推薦者)
- ・小学校関係者1名(小学校長会推進者)
- ・保護者代表1名(私立幼稚園PTA推薦者)
- ・家庭教育関係者1名(「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ)
- ・学識経験者2名(鳥取大学教授、鳥取短期大学准教授)
- ・市町村行政担当者2名(鳥取市子ども家庭課参事、日野町教育委員会事務局教育課長)
- ・アドバイザー1名(白梅学園大学大学院特任教授)

(2) 事務局

- ・教育委員会：足羽教育次長、鳥取県幼児教育センター(小中学校課・各教育局)、特別支援教育課、教育センター、人権教育課、体育保健課
- ・福祉保健局：子育て応援課、子ども発達支援課、福祉保健課

4 概要

(1) 乳幼児を取り巻く現状と課題について

- ・鳥取県での定住・永住が課題である。鳥取で幼児教育・保育を受けてよかったと実感し、鳥取に永住したくなるような幼児教育の在り方を示したい。
- ・遊びることができない子どもへの援助や、支援が必要な子どもへの医療的ケア等について充実させる必要がある。
- ・愛着形成に課題がある。保護者自身の愛着形成、自己肯定感を育てることも課題であり、保護者同士の仲間づくりや家庭教育の内容についても充実させたい。
- ・子育て支援センター等の保護者自身が育っていくシステムの在り方を考えていく必要がある。
- ・保護者のニーズにこたえられる保育所でありたい。土曜日や延長保育など、保育士の確保が不十分で保育の提供が難しい場合がある。

(2) 鳥取県のめざす幼児の姿「遊びきる子ども」について

- ・遊びこんできた子どもは、小学校での学びに対しても「～してみよう」と取り組み、自信をつけている。園でしっかりと遊びきって入学してほしい。
- ・自信をつけるためには、園と保護者が遊びの姿を共有することが大切である。保護者へのアプローチを保育者から行い、つながる関係を構築していく必要がある。
- ・子どもは遊びから様々なことを学んでいる。「遊びきる」という言葉はとても良い。

5 今後の予定

委員の意見を参考に、第2回検討委員会のプログラム骨子案を作成する。